

《白血球と赤血球、それは愛と犠牲》

私達の身体の中には血管があります。血管の中には血液が流れていますね。血液の中にはものすごく大事な二つの成分があります。一つは白血球、もう一つは赤血球です。この二つの成分が身体の中でどんな仕事、役割をしているかご存じでしょうか？

まず白血球の仕事について説明します。白血球の役割は身体、特に血液の中に悪い菌、病原菌が入ってきたらそれをなんとか処理することです。では白血球はどのようなやり方で悪い菌を追い出すと思われますか？何か力づくで、怖い方法でその菌を殺したり、追い出したりするのでしょうか？いいえ、白血球はただ自分の胸を開いてその菌を抱きしめるんです。そうするとその菌は白血球の愛にうっとりした気持ちで感動して、そのまま溶けてしまいます。それが白血球のやり方です。白血球は「お前はなぜそんなに悪いのか。なぜ醜いのか」とは言わない。ただ胸を開いて悪い菌を抱きしめるだけです。

赤血球はどのような役割をするのでしょうか？私達の身体には酸素が必要です。赤血球は酸素を持って身体中を回ります。酸素が必要なところを見つけたら、自分の中にある酸素を惜しまず、残らず与えます。そして、ある期間（四日間）経つと静かに死にます。これが赤血球の運命です。

今この瞬間にも、私達の身体の中ではこのような犠牲が行われています。この二つの成分のおかげで私達の身体がうまくいくようになっているのです。

四旬節第三主日の今日、なぜこのような訳の分らない話をするのかと思われる人もいらっしゃるでしょう。

四旬節にまず思うことは何ですか？「回心、悔い改め」。そう、それは正しいことです。しかし、悔い改めるために何が必要ですか？もし誰かに「四旬節は回心しなければならないよ」と言われて、「何を回心したらいいのか？」と考えるようで、本当に回心できるのでしょうか？ではどうすれば回心することができるのでしょうか？

四旬節は“痛み”です。十字架を黙想しなければなりません。しかし私達が回心に近づくためには痛みの中に隠れている“愛”を感じなければなりません。四旬節は私達がイエス様から実際に受けている“愛”を体験する季節です。いつも痛みや十字架ばかり考えているだけでは本当に必要な回心ができなくなります。

私達の身体の中で二つの成分が素晴らしい仕事をしながら生きている。このことは、私達が誰でもこのような素晴らしい生き方をすることができる、ということを証明しています。なぜなら、自分の身体の中にこういう素晴らしい働きが行われているからです。ある人は「私は寛大な心、許す心を見せようと思っても、生まれつきの悪い性分でそんなことはできない。私が優しくしたら変わったと言われてしまう」と言うかもしれません。しかし、殺人犯といわれる人の中にも、イエス様を裏切って殺したユダの身体の中にも、白血球と赤血球は働いていました。

よく考えて下さい。私達は可能性です。すべての皆様は可能性です。可能性とはなんですか？まだ完全に造られていないことです。ですから可能性として進まなければなりません。そしてその基準、けじめは“愛”でなければなりません。でも私達は愛は苦手、下手です。なかなかむずかしいです。しかし、基準としては愛をいつも意識しなければなりません。私達の中で、顕微鏡でも見えないような小さな二つの物が本当に力を出して頑張っているのですから、その姿を見習って、私達もすべてのことのために愛を体験しなければなりません。

お願いします。復活祭まで四週間残っています。犠牲すること、断食すること。その意味は何でし

ようか？ イエス様は私達が犠牲することを望んでいらっしゃいません。ではなぜ犠牲するのですか？ 犠牲を通して愛を感じてほしいからです。断食して、食べるものがない子供たちのことを思い出す。気の毒な人達の状況をほんの少しでも体験する。そうすれば何をしたら良いか考える。それが神様の願っていらっしゃる事です。

もう一度考えてみましょう。数週間後に迎える復活祭が喜び、完璧な希望として私達の体験になるために、まず、皆様の中に眠っている、そして、恥ずかしくて表に出せなかった愛の可能性をこの四旬節の間を感じてみて下さい。そうしたら周りの人だけでなく、自分を喜ばせる何かの体験ができると私は確信します。

今からでも頑張れば手遅れではありません。このミサを通して心をこめて祈り、神様にその恵みを願いましょう。

今日このミサの後、韓国語のミサと黙想会、その後、フィリピンの人達のための英語のミサと黙想会があります。私にとっては大変な一日です。皆様、私のためにもお祈りをお願いします。

ありがとうございました。